

新 雲仙プロジェクト通信 1号・2号合併号

平成24年11月17日(土) & 平成24年12月11日(土)～12日(日)

【新 雲仙プロジェクト NPO 奥雲仙の自然を守る会との初会合】

昨年平成23年度は、チームギアの松本さんのプロジェクト「雲仙 千の物語事業」で毎月1回は通っていた雲仙でしたが、今年度は、本当にご無沙汰となってしまいました。チームリーダーとして、これじゃあいけないと奮起？し、松本さんから紹介のあった「NPO 奥雲仙の自然を守る会」の中田代表にお会いすべく、再度、雲仙に向かったのが、11月17日(土)です。

中田代表より、午前中に雲仙の自然に関する講演があるので、ぜひとも聞いてくださいとのこともあり、寺井先生(もと島原高校の地学?の先生で、現在は、長崎県教育センター主任指導主事)の話をお伺いしてきました。場所は、奥雲仙の田代原トレイルセンターという自然観察の拠点施設。共助研からのメンバーは、波木事務局長、岑さん、山下さん、金尾さんと矢ヶ部の5名。



寺井先生の話は、雲仙地域が日本初のジオパークに指定を受けたいきさつ等からはじまり、雲仙の地形の面白さ、その地形を形作っている断層の話、ついでにということ、福岡の警固断層の話まで、約1時間半、先生の話しっぷりのうまさと内容の濃密さで、聞き込んでしまいました。少人数で聞くのがもったいないような面白く、かつためになるお話でした。

午後は場所を寿妙院(中田代表が住職を務めるお寺さん)に移し、NPOの中田代表をはじめNPOメンバーの方々(木田さん、松崎さん、柴田さん、入口さん)と共助研メンバーとの打ち合わせを行いました。それぞれの団体の活動状況の紹介をはじめ、共助研としてどのような支援ができるのかがメインのテーマです。

その中で出てきたのが、牧草地の隣縁部に生息しているミヤマキリシマが、近年の管理が十分にできないことが原因で、どんどんと姿が見えなくなっているという話です。場所が、雲仙国立公園の第2種特別地区に指定されていること、土地利用が牧草地であること等、国立公園内の規制との関連で、なかなか草刈も勝手にできない状況にあること等の問題が、地域を良くしたいという中田代表をはじめNPO皆さんがジレンマのような状況に陥っているというようなお話だったかと思います。



共助研メンバーとしては、環境の保全のために、あるいは、魅力的な景観を保全・再生することで地域が元気になることについては、得意とするところ!! 私たちにお任せなさい!! とまでの啖呵は切ってはいませんが、いろいろと支援はできそうだということで、次につなげることにしました。

今回は、日帰りでしたが、本当に寒い中、昼食は、地元で取れた食材による暖かいなべが振舞われました。冷えた体に、地元の方のあたたかい気持ちのこもった暖かい食事をいただくことができました。



【新 雲仙プロジェクト活動開始】

12月に入って、NPO木田さんより連絡が入り、牧草地の草刈をするので手伝ってもらえませんかとの話をいただき、さっそく、本格的な始動を開始することとなりました。メンバーから、せっかく行くのであれば、民泊体験をということで、お寺の本堂で寝ることになりますから寒いですよ！！と散々脅されつつ、1泊2日で、再度、奥雲仙へ向かうこととなりました。

12月15日(土)13:00 あいにくの天気の中、今回は、木寺さん、山下さん、金尾さん、私の4名で、一路雲仙へ向かいました。途中、金尾さんが体調不良で、引き返されましたが、木寺さん、山下さんと私でしっかりと参加してきました。

2度目ということでしたが、再度迷ってしまい現地の到着は、17:00過ぎとなってしまいました(へたにGPSに頼るとだめということを再認識しました)。

中田代表、木田さんに、そして、体操教師でもある松崎さんの方々の出迎え受け、さっそく座禅体験を。ご指導していただくのは松崎さんで、呼吸法などを短い時間の中で教えていただきました。そのあと、NPO奥雲仙の自然を守る会の方々との交流懇親会をおこないました。

私達3名とNPO中田代表、木田事務局長、会員の方々と奥さんがたの10数名の楽しい会となりました。



(左)地元食材の鍋と、おいしい日本酒！！
(上)お酒が大好きな江副さんと奥さん

翌朝12月16日は、朝のお勤め(お寺泊のため)のあと、環境省の滝藤自然保護官(若い女性職員)も参加され、「奥雲仙の勉強会」が開催されました。NPOからの参加者は、中田代表、木田さん、柴田さん、山口さん、荒木さん、松崎さん。また、途中飛び入り?で昨年もたいへんお世話になった田浦さんも参加され、忌憚のない活発な意見交換がなされました。

滝藤自然保護官から国立公園内の規制の概要等の話をいただき、具体的な今回の牧草地における植生管理の話については、地域の景観を守ることは、自然公園の目的でもあるということで、積極的な支援・協力が得られそうな話でした。ただ、やはり人力の手当ては難しいようで、ここにも体を張って貢献する共助研としての活躍の場があるようです。



国立公園内で、かつ牧草地という特殊な環境において、

管理不足が影響し、ミヤマキリシマが灌木や雑草の繁茂の影響で大きく衰退しており、いかに、ミヤマキリシマをまもるかがテーマとなるということで、木寺さんはじめ共助研から、少し専門的な視点での意見交換もできたので、共助研の存在価値も大いにPRできたかと思えます。会議には、

午後、牧草地の状況視察を行いました。とりあえずは、牧草地との隣縁からミヤマキリシマの生息を妨害している雑木を取り除くことではじめましょうとの、作業方針もおおむね見えてきました。

その後の牧草地の除草作業は、木寺さん、山下さん、私は、鎌を持って、さくさくといばら刈を行い、わずかですが、地域貢献ができたかなと自己満足してきました。作業には、地元の方10名参加もあり、なかなかいいムードで無事終了しました。

今後のやるべきことも少しずつ見えてきたこともあり、来年も積極的にお手伝いしますということで、2回目の奥雲仙訪問は無事終了しました。今回は、波木事務局長が不在ということもあり、すこぶるいい天気にも恵まれたことを申し添えておきます(というものの次回はご参加ください。波木事務局長殿)

今後、雲仙プロジェクトとして、心機一転、ミヤマキリシマの保全、地域の元気作りのために、少しでも共助研が地域の役に立てればと思い、意気込んでいます。多くの方々の参加と支援をお願いし、プロジェクト通信を終わります。



(上)ミヤマキリシマを残すためにどれを切る？

いいね！ ♡ 雲仙 よんなんせ



牧草地とその隣縁部の状況



牧草地の草刈に精が出る木寺さん



中田代表がお勤めする「寿妙院」



平成 24 年 11 月 17 日のメンバー集合写真です



平成 24 年 12 月 16 日(日) 牧草地草刈メンバーの集合写真です